

「鳴沢村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）」及び
「鳴沢村まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」に対する
パブリックコメントの実施について

1 パブリックコメントの概要

●実施方法

「鳴沢村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）」及び「鳴沢村まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」を村ホームページにて提示及び希望者には印刷したものを配布して、意見・提案等の募集を実施。

●期間

平成28年2月24日（水）～3月4日（金） 合計10日間

●意見提出者数等

提出者 2名 提出件数 19件

●提出方法の内訳

(名)

直接持ち込み	郵送	F A X	Eメール	合計
0	0	0	2	2

2 意見等の内容と村の考え方

①鳴沢村まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）について（4件）

●「第1章 人口の現状分析」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP1】 （ビジョンによると）人口は、平成22（2010）年に2,964人となっています。国勢調査による数字と理解しますが、同年の広報“なるさわ”には、3,100～3,200人が村の人口として公表されています。 国勢調査と広報との約200人の差異は、どう理解したらいいのでしょうか？また、どれが実態なののでしょうか？</p>	<p>人口ビジョンの人口は「国勢調査人口」をベースとしており、広報に掲載されている人口は、本村に住民登録をしている「住民基本台帳人口」となっております。 総務省統計局において、国勢調査人口と住民基本台帳人口の差異についての分析・見解が示されており、その要因としては、 ・学生等が、親元に住民票を置いたまま他の市町村で一人暮らしをしている。 ・高齢者等が、自宅に住民票を置いたまま他の市町村の施設等に入所している。 といったケースなどが考えられております。 また、本村特有の要因として、別荘地域に住民登録されている方で二地域居住をされている方もいらっしゃるのではないか、といったことなども差異の要因の一つとして推定しております。 「どちらが実態なのか」という点については、何を実態と定義するのか難しいため明確な回答はできませんが、「実際にその地域で生活している人」という考え方に近い数値は国勢調査人口になるのではないかと思います。 （企画課企画政策係）</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP18】</p> <p>産業に関して、鳴沢村の基幹産業は製造業であるとしています。</p> <p>グラフから、男女あわせて約800人が製造業に従事していることを示しています。また2ページでは、生産年齢人口(15～64才)が1,789人であるとしています。そうすると村の人口の半分に近い人が製造業に従事していることとなります。</p> <p>鳴沢村の製造業とは、具体的にどのような業種を言っているのでしょうか？</p>	<p>まず、P18に掲載されている「就業者数」は、鳴沢村にある事業所等に就業している方全体の人数であり、村外からの就業者も含まれておりますので、「製造業」の従事者約800人が、全て鳴沢村の方というわけではございません。</p> <p>鳴沢村の「製造業」についてですが、平成26年の経済センサスの基礎調査結果を見ますと、「産業中分類」という分類で「生産用機械器具製造業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」「木材・木製品製造業(家具を除く)」などが多くを占めております。村内の主要事業所の業種等を勘案しますと、具体的には金属加工機械製造業、半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置製造業、電子部品製造業、製材業などになるかと思われます。</p> <p style="text-align: right;">(企画課統計担当)</p>

●「第2章 将来人口の推計と分析」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP29】</p> <p>本文に、“アンケート調査では、・・・”とありますが、いつ実施されたアンケートですか？</p>	<p>住民アンケート調査は、「16歳から49歳までの男女」「50歳以上の男女」「転入者(直近5年以内)男女」「転出者(直近3年以内)男女」に分類して、それぞれ無作為抽出により選出した合計1,200名の方にお送りしたもので、平成27年11月13日から12月9日までの期間で実施いたしました。</p> <p style="text-align: right;">(企画課企画政策係)</p>

●「第3章 鳴沢村の将来人口展望」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP33】</p> <p>(『(1)産業や地域コミュニティの担い手不足』について)</p> <p>移住・定住で村への転入者が増えるということは、この新しい村人たちと、自治会や組といった既存のコミュニティとの関係をいかに調整してゆくのが重要な課題となります。既存のコミュニティはなかなか転入者を受け入れづらいでしょうし、転入者も入りづらいので、お互いなかなか融けこまないのが現実かと思えます。</p> <p>今、村を活性化しよう、人口を増やそうとしたとき、血縁や地縁を持たない人々が、鳴沢村の住民になるわけで、地域コミュニティをどう育てるのかは、まさに“地方消滅”するか否かの大きなポイントかと思えます。</p> <p>この地域で育ち家庭を持った人ですら、既存コミュニティとの関わりを煩わしいと考えて</p>	<p>ご指摘のとおり、地域コミュニティの存続が村の存続にもつながるものと考えます。</p> <p>集落地に転入してこられる方も昔に比べてかなり増えてきており、各区及び組等の既存の自治組織に加入する方もいらっしゃいます。また、自治組織に入らないまでも、消防団、育成会、子育てサークルや各種スポーツクラブなどに加入したり、保育所の保護者会役員、小学校のPTA役員を通じて交流を深めたり、地域イベント等に参加するなどして、血縁・地縁がなくとも地域に溶け込んでいる方も多く、別荘地域に転入された方でもそのような方はいらっしゃいます。「転入者を受け入れづらい」という風潮は昔に比べなくなってきていると感じます。</p> <p>コミュニティを形成するうえにおいては、それぞれが役割を分担したり、ルールやマナーを守って生活していくことが必要であり、それを存続させていくためには、既存の住民と転入してこられた方とのお互いの理解と思いやりが重</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>いると聞いています。</p> <p>地域コミュニティが持続可能か否かは、既存コミュニティがどのように受け止めるのかが、重要だろうと思います。</p>	<p>要ではないかと思います。</p> <p>これから入ってこられる方には、そのような点を理解していただいたうえで、積極的に地域コミュニティに入ってもらったり、既存住民との交流を深めていただきたいと思いますし、今住んでいる住民の方々にも、受け入れていくという意識をさらに深めていただきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">(企画課企画政策係)</p>

②鳴沢村まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（15件）

●「施策① 企業誘致等による雇用の創出」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP14】</p> <p>鳴沢村に新しい企業が誘致され、雇用が生まれたとき、おそらく大半は近隣の市町村から通勤してくることになると思われます。従がって、企業誘致＝定住者増という図式にはならないと思います。</p> <p>村の活性化を考えるのであれば、たとえば教育施設（大学、各種学校など）、研究施設など含め誘致の選択肢を広げて考えるべきだろうと思います。</p>	<p>企業誘致については、企業への助成や減税等のインセンティブの要件のひとつとして、一定数の地元雇用も掲げており、また、実際の誘致の交渉等の際にも地元雇用は積極的に要請していきたいと考えておりますので、企業誘致は移住・定住等にもつながる施策のひとつと考えております。</p> <p>また、誘致は企業だけにこだわらず、教育施設や研究施設、商業施設等も視野に入れて検討していきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">（企画課企画政策係）</p>
<p>【該当ページP14】</p> <p>企業誘致についてですが、具体的にどの業種に絞っていくというのではないのでしょうか</p> <p>例えば雇用規模の多い企業だけではなく、ベンチャーも積極的に受け入れていくような施策など。</p> <p>あるいは、新たなる基幹産業の育成がこの村には必要なんだという強いメッセージが必要か。</p>	<p>企業の絞り込みというのではなく、鳴沢村の環境や景観に合った企業全般を想定しています。限られた企業を他自治体より、如何に鳴沢村に誘致できるか門戸を広げておく必要があると考えます。</p> <p style="text-align: right;">（企画課企画政策係）</p>

●「施策② 村内産業の育成」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP15】</p> <p>今までもこれからも農業は基幹産業であるならば農業に対する、もう少し踏み込んだ対策が必要だと思います。さらにこれから農業以外の基幹産業はこれから見つけていくと言うような曖昧なメッセージになっている気がします。村内産の木材を使用した・・・などはないのでしょうか</p> <p>地熱エネルギーの調査研究が含まれていますが、鳴沢村は森林産業が盛んであった背景から木質バイオマス等については検討して行かれないのでしょうか</p> <p>重要業績評価指標の項目をもう少し増やして評価された方が良く思います。</p>	<p>まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）において調査した結果、村の基幹産業は製造業でありました。基幹産業であると思われていた農業への就労者は年々減少し高齢化率が高まっております。また、農家数は減少傾向にあり、農家数の減少に歯止めをかけることが第一優先であると思います。村の総合戦略では、農業者への各種補助金や助成金を継続し、農地の保全や整備、有害鳥獣対策を推進し、農業法人の誘致・設立などにも取り組んで、農作物の生産向上を図ってまいります。農家の所得向上のために、農産物に付加価値を付けたたり6次産業化への取り組みに対し支援していきます。</p> <p>村の森林面積は、7,745ha あります。そのうち、県有林 6,724ha（86.8%）、民有林 1,021ha（13.2%）です。県有林の占める割合が圧倒的に多く、村の考えだけで施策を進めていくことはできませんが、豊富な森林資源を活用し村内の産業育成を行うことができるよう、国の動向を注視しながら県と連携し森林資源の活用を図っていきます。</p> <p style="text-align: right;">（振興課農政・林務係）</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
	<p>(前頁つづき)</p> <p>今回の総合戦略は、P 6に掲載されているような方法で今後も見直しを実施していきますので、次回見直しの際に重要業績評価指標の項目の追加についても検討したいと思います。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>

●「施策③ 鳴沢村への新規移住者招致、定住の促進」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP17】 (『子育て世代をターゲットとした定住プロモーションの展開』について)</p> <p>(移住・定住を促進するターゲットを) 子育て世代を中心とすることに、いくつか注意すべき点があると思います。</p> <p>一つは、教育施設への満足度です。</p> <p>子育て世代の関心事は教育ですから、中学校、高校そして大学へとつながる教育施設への満足度が低いと、移り住んでこないと思います。</p> <p>他の市町村の事例にもあるように、多くのインセンティブを用意して受け入れた子育て世代の家族が、子供が東京の学校に進学することになって、通学しきれず転出して行くという話を聞きます。</p> <p>つまり、受け入れるための体制を整え、投資をしても無駄になる場合があるかと思えます。特に、子育て世代にターゲットを絞る場合は、受け入れ条件をより明確にしておくべきでしょう。</p> <p>二つ目は、冬の寒さの厳しさです。</p> <p>住環境は申し分ないまでも、移住される方には「冬場の寒さは厳しく雪も降り、生活には車も欠かせないという都会の方にとっては不便な点もある」(1年ほど前の村議会での村長の答弁)ことへの認識をしっかりと持っていただく必要があります。</p> <p>ターゲットを考えると、生業をもって移り住む人たち、例えば工芸・音楽・執筆などの文化関係、スポーツ関係等々に的を絞ったプログラムを考えてみてはどうでしょうか。定住して活動してくれる可能性が、大きいのではないのでしょうか。</p> <p>何かの特徴に絞った、定住促進計画を検討されてはどうですか。</p>	<p>本村の場合、高校・大学等への進学の際に、通学ができないため家族ごと転出してしまいうケースはほとんどありません。(前述したとおり、住民票を残して一人暮らしするケースが多い様です。)</p> <p>子育て世代の子どもたちが、進学で一旦村を離れてしまっても、卒業後や就職後に戻ってきて、家庭をつくれるような地域づくりが大切であると考えます。雇用の創出や住環境の整備、子育て・教育環境の充実、U・Iターン者への支援など、今後様々な施策を検討していき、若い世代が村に入ってくる、戻ってくるような村を目指していきたいと思います。</p> <p>住環境等については、以前の村長の議会答弁にもありましたが、冬場の寒さや降雪、公共交通の不便さなどについては、移住相談等の際にも相談者に正直に伝えております。良い点やアピールポイントばかりでなく、環境の厳しさや不便な点などもしっかりと伝え、それらも理解してもらったうえで本村に来てもらうことが「定住」につながるものと考えております。</p> <p>また、生業をもった方に移住してもらうことは、地域の活性化や、業種によっては住民の生活の利便性の向上にもつながりますので、そのような方の移住・定住策も検討していきたいと思えます。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP17～】</p> <p>人口ビジョンが示すようにこのままでは人口減少により自治体存続が厳しい状況となることが予測されています。</p> <p>そのような中で、この施策は大変重要だと思われませんが、全体の施策の主な取り組みを見ると少し力弱さを感じます。</p> <p>当面は新規移住者を対象としているということでしょうか？例えば鳴沢村で生まれた若者達のUターンできる環境作りも大切だと思います。Uターン就職が可能な環境整備することが、基本目標Ⅲの部分で育てると言うことに関連するのだと思います。例えば、ある家庭を想定すると、地元で子供を育て大学を県外に行きUターン就職した、鳴沢村で子育てを行う。この様な人たちの動きが村の活性化、人口維持につながるのではないのでしょうか？</p> <p>特にこの部分は施策⑥とも関連づけて考えていく方がより具体的に進められるのではないのでしょうか。</p>	<p>施策の概要にもあるとおり、移住・定住に対する施策は新規移住者のみでなく、Uターンの方も対象としております。</p> <p>ご指摘のとおり、子育て世代の子どもたちが、進学で一旦村を離れてしまっても、卒業後や就職後に戻ってきて、家庭をつくれるような地域づくりが大切であると考えます。雇用の創出や住環境の整備、子育て・教育環境の充実、U・Iターン者への支援など、今後様々な施策を検討していき、若い世代が村に入ってくる、戻ってくるような村を目指していきたいと思います。</p> <p>また、施策①から施策⑦までは相互に関連があり、それぞれの施策と連携することにより、その効果が出てくるものと考えていますので、バランスの取れた施策の実現を検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">(企画課企画政策係)</p>

●「施策④ 観光資源の整備と観光振興による交流人口の増大」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP18】</p> <p>観光資源の開発に現時点で想定されている物なども含めて記述された方がわかりやすいと思います。(選択と集中・・・)</p> <p>また、全体的に言えることですが、主な取り組みを列挙していますが、それぞれもう少し精査しグループ分けした方がわかりやすくなると思います。</p>	<p>まだ現時点では具体的に想定しているものはございませんので、これから検討していきます。</p> <p>また、次回見直しの際には、主な取り組みのグループ分け等を行い、さらにわかりやすく整理していきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">(企画課企画政策係)</p>

●「施策⑤ 若者たちの出会いと交際を支援」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP19～】</p> <p>これでは・・・</p> <p>例えば施策の⑤⑥を一緒にして出会いの促進と結婚後に直面する育児に対する支援とし、支援⑦として小学校から高校生想定までを支援する内容にしてはどうでしょう</p> <p>現実に不登校の子供も多いと聞いています。産む、育てるの初期段階の支援も必要ですが、社会に送り出す為の支援も必要だと思います。</p> <p>また、教育は親にとっての一番の関心事だと思いますので、学習機会をさらに充実させていく施策が必要だと思います。</p> <p>さらにシニア世代が増えていく中で、村の活性化にはシニア世代の活躍促進も大切だと思いますが、具体的計画はありませんか？</p>	<p>今回の総合戦略においては、ご指摘のとおり、結婚支援の具体的な施策や、中高生の子どもを持つ方への子育て支援策、シニア世代への支援策などが比較的少なくなっていますが、中高生の子どもを持つ方への子育て支援策のひとつとして、「鳴沢村子ども医療費助成金支給条例の一部を改正する条例」が3月8日に可決され、平成28年6月1日より、助成金支給の対象年齢が、現行の中学3年生から高校3年生までに引き上げられることとなりました。これに伴い、総合戦略P20の施策の概要欄に「子ども医療費の助成金支給の対象年齢を、現行の中学3年生から高校3年生までに引き上げます。」という文言を追加し、主な取り組みの「子ども医療費の助成」を「子ども医療費の助成の拡充」に修正</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
	<p>いたします。</p> <p>現状や全体的な施策のバランスも考慮し、支援等が不足しているような分野については、今後の戦略の見直しのなかで、施策の拡充を検討していきたいと思います。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>

●「施策⑧ 便利で快適な生活環境の充実」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP22】 『開業医の誘致に向けた取り組み』について</p> <p>住みよさの為には教育施設・商業施設そして医療施設の充実があります。ただいずれも、鳴沢村だけで考えても限界があり、周辺市町村を含めて広域で考えるべきではないでしょうか。</p>	<p>今回の戦略に掲載されている開業医についての施策は、現在医療機関が歯科医院と接骨院しかない本村の医療体制の充実を図るため、「診療所・クリニック等」の規模の誘致を目指していくという施策ですので、広域での連携という考え方からは切り離してご理解いただきたいと思います。</p> <p>広域連携の必要性につきましては、後段のご意見にもございましたので、そちらで村の考えをご提示いたします。(企画課企画政策係)</p>
<p>【該当ページP22】</p> <p>ここに人口比割合が高くなるシニア世代への支援を統合していけばどうでしょう。</p> <p>若者は情報をとりやすいと思いますが、村内で情報格差を少なくすることが災害対応を含めて快適生活に結びつくと思います。</p>	<p>主な取り組みのなかに「CATVデータ放送を活用した情報提供の実施」という施策がありますが、これは、普段使い慣れているテレビを活用して行政情報や生活情報、災害情報などを提供するためのシステム構築であり、これによりパソコンなどを使い慣れていないシニア世代の方でも、比較的簡単にいろいろな情報が取得できるのではないかと考えております。</p> <p>シニア世代への支援策については、ご意見を参考に現状や全体的な施策のバランスも考慮し、今後の戦略の見直しのなかで施策を検討していきたいと思います。(企画課企画政策係)</p>

●「施策⑨ 災害に強いむらづくり」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP23】</p> <p>先般2月29日に山日新聞に記載されましたが、鳴沢村の大規模災害時の要支援者対策については、福祉避難所整備が不十分であるとの回答でした。このことも踏まえて早急な整備について記述されたらどうでしょうか。</p> <p>また鳴沢村への移住や快適生活にも関係してくると思いますが、予測されている災害に対して万全の体制を取っていると言うことが村としてのアピールになるのではないのでしょうか。</p>	<p>災害に強いむらづくりの主な取り組みにつきましては、現在継続している2事業、今後、実施が確定している新規2事業を掲載しました。</p> <p>ご提案の福祉避難所の件につきましては、指定にあたりましては公共・民間施設にかかわらず、物資・器材の整備、人材の確保が必要となります。村内の限られた施設において、そのような対応ができる施設は少なく早急に整備することは困難であります。長期総合計画の中で福祉避難所の拡充について検討させていただきますが、同時に、お互いが支え合い協力していく「共助」の意識づくりを醸成する取り組みも推進していきたいと思います。(総務課消防防災係)</p>

●「施策⑩ 自然と景観の保全」について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>【該当ページP23】</p> <p>少しわかりにくいと思います。景観リーダーの役割や修景事業の中身がもう少しわかりやすく記述された方が良いと思います。</p> <p>周辺の市町村と比べこの施策も鳴沢村らしさになるのではないかと思います。</p>	<p>施策の内容をわかりやすくするため、施策の概要欄を『鳴沢村の美しい景観づくりの取り組みの中心となる「景観リーダー」等の人材育成や、街並みに配慮した建物・工作物等の外観修景などの修景事業に対する支援等を行い、美しい鳴沢村の景観を守ります。』という内容に修正いたします。</p> <p>また、P13の欄外に、景観リーダーについての注釈文章を追加いたします。</p> <p>(企画課景観担当)</p>

●総合戦略全般について

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>◆戦略に鳴沢村の“個性”を！</p> <p>地方創生の政策を受けて、全国の市町村で“まち・ひと・しごと創生”への取り組みが行われています。どの市町村も人口の解析及びビジョン、それに基づく総合戦略の策定に腐心していると思います。</p> <p>恐らく戦略はどこも似たようなレポートになるでしょう。企業誘致、定住・移住の促進、企業・移住者受入のための生活環境の整備等々・・・。</p> <p>そして、日本中で我が市町村に企業や人を呼び入れるために動きはじめ、限られたパイを奪い合うことになるだろうと思います。すこしでもスピードを上げて、実施する必要があるかと思えます。</p> <p>また、他の市町村とは異なる独自の戦略を模索する必要もあるかと思えます。他市町村との差別化を意識し、ユニークで個性ある戦略を期待します。</p>	<p>地方創生の取り組みは全国で行われていますので、おっしゃるような「限られたパイを奪い合う」といった図式は確かに存在するかと思いますが、「誰でもいいからとにかく早く移住してもらって人口を増やそう」というわけではありません。前述しましたが、本村での生活の厳しさや不便な側面も受け入れたうえで、鳴沢村に溶け込んで「定住」していただきたいと考えております。</p> <p>また、「都心から近い立地条件」「富士山を中心とした自然環境」「おいしい水」などは本村ならではのアピールポイントであり、「ほどよい田舎」であるところが鳴沢村の良さであると思えますので、それらを活かした地方創生の取り組みを考えていきたいと思えます。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>
<p>◆広域との連携の中で考える</p> <p>“地方創生に関してはどこも似たようなレポートになる“と書きましたが、抱える問題は同じであり、自分の行政範囲だけでものを考えているのは解決しないでしょうし、また効率的ではないと思うのです。</p> <p>自分の日常をみても、教育・商業・医療などの面では鳴沢村の“外”で生活していると言えます。人口3,000人強の自治体に出来ることには、限界があると思えます。</p> <p>ひとつの自治体で取り組める課題と、広域との連携の中で解決すべき課題とを整理し、関連自治体と認識を共有して戦略を作り上げて行ってはどうでしょうか</p> <p>少なくとも富士北麓の市町村(河口湖町・富</p>	<p>おっしゃるとおり、鳴沢村だけで全てを解決・完結させるのには限界があると思えます。</p> <p>地方創生のためには、地域での連携も必要であり、また、村の抱える問題について、ほかの地域に活路を見いだすことも選択肢のひとつとして考えられると思えます。</p> <p>現在も近隣市町村との広域的な取り組みは行われており、今回の施策のなかでも、「新たな周遊バスの導入・運行支援」「広域連携ポータルサイトによる情報発信」「周辺自治体と協同で婚活イベントを開催」「コミュニティFM局の開局と広域連携による情報発信機能の強化」といった広域的な施策も盛り込まれております。</p> <p>今後、地域として地方創生を成し遂げていくためにも、広域で連携しての取り組みを推進し</p>

意見の内容	意見に対する村の考え方
<p>士吉田市・忍野村・山中湖村)で、あるいは範囲を拡大して大月に至る西桂町・都留市・大月市までも含めた広域で、ものを考えるほうがいいのではないのでしょうか。</p> <p>どこかがリーダーシップをとって、より魅力的な地域に育ててほしいと思います。</p>	<p>ていきたいと思います。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>
<p>計画全体に関係することですが、鳴沢村を一言で言えば「 」とみんなが言えるキーワードが必要では。</p>	<p>確かにキーワードがあるとイメージが伝わりやすく、意識の共有が図りやすくなると思います。今後、移住・定住促進や観光振興等の施策の展開の中でキーワードやキャッチフレーズを検討し、戦略の見直しの際にそれらを取り入れていきたいと思います。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>
<p>自らを律するという意味で行政機能の効率化にも踏み込んでみたらいかがでしょうか</p> <p>やはり計画が立派であってもそれを実行に移す側もより効率的・効果的な組織にしてこそ実効性があるのではないかと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、施策を実施していくうえで、体制づくりが非常に大切になると思います。</p> <p>そのような事も踏まえ、P9の「視点1. 実効性の確保」の3行目以降を『人口減少の抑制および持続可能性の維持に向けて体制を整え、創意工夫を重ねた施策が的確に実施できるよう、職員一丸となって取り組みを推進します。』という内容に修正いたします。</p> <p>(企画課企画政策係)</p>